

▽平成 28 年度活動報告

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までの活動内容について報告する。

I 全体報告

(1)入館者数

平成 24 年 10 月 10 日の開館以降、平成 29 年 3 月 31 日時点で延べ 41,794 名が訪れている。平成 28 年 11 月 11 日には入館者が累計で 4 万人に達し、「来館者 4 万人セレモニー」を開催し、松江市能海副市長より記念品を贈呈していただいた。前年度と比較すると、特に 4 月、7 月、1 月の入館者数が増加しているが、その他の月は、昨年と比較すると減少した。年間を通して来館者数は、前年度の 87%となった。

これは、記念館での行事、学会の誘致などが前年度に比べ減少したことも原因として考えられる。

さらなる来館者の増加を目指し、魅力あるイベントや、企画展の開催、また、広報を強化するとともに、来館者を増やす努力を行っていききたい。(平成 29 年秋には来館者 5 万人を達成する予定)。

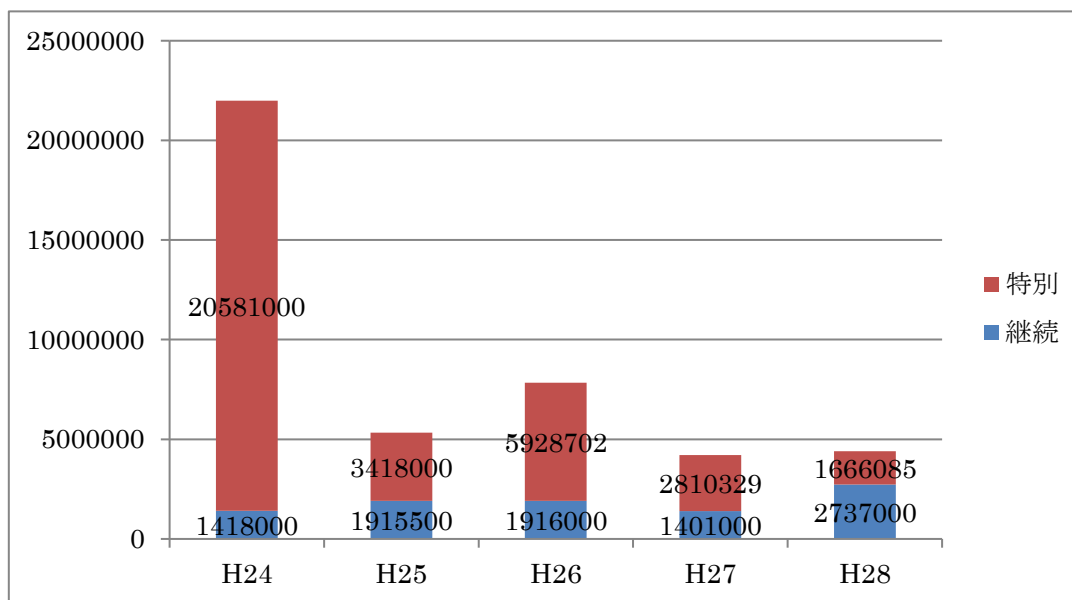
月別入館者数

月	平成 27 年度 入館者数(人)	平成 28 年度 入館者数(人)	対前年比(%)
4 月	737	1,426	193
5 月	957	917	96
6 月	832	560	67
7 月	450	571	127
8 月	604	597	99
9 月	718	595	83
10 月	721	585	81
11 月	1,093	469	43
12 月	451	369	82
1 月	206	249	121
2 月	709	235	33
3 月	800	587	73
合計	8,278	7,160	86
月平均	690	597	87
累計	34,634	41,794	

(2) 寄付の状況

当館は篤志の皆様のご寄付で運営している施設である。単年度の寄付である特別寄付、複数年度に渡る寄付である継続支援寄付の募財状況について報告する。

寄付金額の推移



上記グラフの通り、平成 28 年度の寄付金額は前年度に比較して 191,756 円増加し、前年の約 105%となった。単年度の寄付である「特別寄付」が昨年度よりさらに大きく減少していることが危惧される。また、複数年度の寄付である「継続支援寄付」の金額が前年より 1,336,000 円増加しているが、これは、寄付者のご都合により、複数年分をまとめてのご寄付があったこと、寄付者ご自身が高齢となったためこれを最後にと、通常金額より多くご寄付いただくなど、次年度につながらないケースがいくつかあったためである。

8月に山陰中央新報記事で、中村元記念館の存在意義と厳しい経営状況を伝える記事が掲載されたことで、何件かのご寄付をいただいた。故中村博士のご意志、理念を継承し、次世代に伝えていくため、今後も中村元記念館を継続的に運営していくためには、寄付金の募集にさらに力を入れなければならない状況である。

中村元記念館の運営、活動、その存在意義をこれまで以上に多くの方に周知し、ご理解、ご賛同をいただけるよう、さらなる努力を重ねていく必要がある。

平成 25 年度より活用できるようになった「しまね社会貢献基金」への寄付金についても、当館の社会貢献事業をさらに推進することで、中村元記念館を支援することが企業の社会的責任を果たすことにもつながることを認識していただけるよう、事業を推進することはもちろん、「しまね社会貢献基金」の制度についてもご理解を求めていくよう努める。

II 個別事業報告

(1) 故中村元博士の蔵書の管理及び中村元記念館の管理と運営

1. 中村元博士蔵書整理事業(松江市より受託)

事業の目的	松江市の財産となった中村元博士の蔵書の整理・公開を進めることで、研究者のみならず、一般市民にも広く活用していただく。松江市民の財産として永く保存できる状態にする。
実施期間	通年
事業内容	<p>■ 蔵書整理・登録</p> <p>平成 26 年度に導入した図書管理ソフト GANGA と NACSIS 接続ソフト MILAGRO により、国立情報学研究所が運営する総合目録データベース (NACSIS-CAT) を利用し、自館と NACSIS-CAT への登録を実施。</p> <p>平成 28 年年度は、中村元博士の携わった出版物と、博士が書斎隣接書庫に保管されていた蔵書を中心に整理を進め、和装本やインドの出版物などを含む 3,112 点(このうち雑誌は 705 冊)の資料の登録が完了した。</p> <p>■ 蔵書の公開</p> <ul style="list-style-type: none">・展示室の企画展や図書室のミニ展示により、未公開の蔵書を順次公開した。・4 月より記念館の OPAC(オンライン蔵書検索)が 24 時間アクセス可能となり、予約制による閉架書庫の蔵書の閲覧を一般市民からも受け付けられる環境になりつつある。・鹿児島大学図書館より、相互貸借の要望があり、テスト例として複本が潤沢にある資料を 1 冊、利用提供した。(中村博士がご親戚について編まれた非売品資料『日本最初の建築家 山口半六』) <p>■ 図書室ニュースの発信</p> <p>中村元博士蔵書に関するトピックスや図書室の情報を、フェイスブック、ブログなどで発信。今年度は6回発信した。</p>

(2) 東洋思想・文化に関わる講座、研究、イベント・企画展 等の実施

1. 東方学院松江校の運営

事業の目的	「真に教えたい一人と、真に学びたい一人が集まれば学院は成り立つ」という中村元博士の理念に基づき、学問のセクショナリズムにとらわれない現代の寺子屋として多くの人々が東洋思想について教え、学び、日々研鑽を深めるため、の場を提供する。
実施期間	平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
事業内容	「東洋思想研究の世界的権威」として松江名誉市民を授与された中村元の創設した私塾「東方学院」の理念を継承し、「東方学院松江校」として中村の専門であった東洋思想分野に関連する講座を開講した。 通年の講義では、仏教学分野の講座として6講座、その他、文学や郷土に関する分野では 5 講座を開講した。特筆すべき講座は「ものがたり環境宗教学」であり、すでにあつた兵庫県立大学の講座が廃止され、後任を充てていないことから現在、我が国で唯一「環境宗教学」を学べる場となっている。 外部から講師を招聘する集中講義では、現職の大学教員を中心に、中村博士の専門であったインド哲学をはじめ、ジャイナ教、イスラーム教、アメリカ仏教など広く学問としての宗教を学ぶことができる講座を11講座開講した。 ・講座数:22講座 述べ受講生数:172 名

2. 研究員による研究活動

事業の目的	中村元記念館東洋思想文化研究所研究員:7 名。 各自、故中村元博士が開拓した学問の道を探求し、山陰地域の学術・文化の振興に寄与することを目的として、研究活動を行っている
実施期間	通年
事業内容	研究活動報告の場として、所属研究員による「中村元思想文化カフェ」を実施した。平成 28 年度は7回開催し、実施内容については、以下の通り、研究員の関心や企画展の内容に沿った講演など、毎回異なるテーマを設定した。毎回茶菓を用意し、和やかな雰囲気に参加者たちからの活発な発言があり、リピーターも多く、研究員の励みにもなっている。 ◆第3回 平成 28 年 4 月 17 日(日) (参加人数:8名) ninjin(講演) 写真で遊ぶはじめの一步 岡崎 秀紀 2015 中国内モンゴル・ホルチン地方のブォーの現地調査から～シャーマニズムと仏教、チベット仏教圏の拡がり～

	<p>◆第4回 平成28年6月18日(土) (参加人数:25名) 島田 隆輔 華嚴経と宮沢賢治について試みに考える 笠原 愛古 中村元とは誰か?とあるインド哲学者の思想世界</p> <p>◆第5回 平成28年7月30日(土) (参加人数:15名) 笠原 愛古 中村元の蔵書とその時代にみる日本の学知—歴史・哲学・思想—</p> <p>◆第6回 平成28年8月20日(土) (参加人数:17名) 中野 秋鹿 能楽と神楽の比較—スサノオの表現にみる出雲人のこころ— 横山 純子 ラフカディオ・ハーンの“Nirvana”を読む</p> <p>◆第7回 平成28年11月26日(土) (参加人数:10名) 中村元博士生誕記念『中村元物語』出版記念トークショー 「ナカムラハジメって、どんな人?中村元〈再考〉」 [出演者] 笠原 愛古×福本 七生子</p> <p>◆第8回 平成28年12月24日(土) (参加人数:17名) 岡崎 秀紀 日本音楽にみる仏教思想～THE 仏教観 J-POP～ 笠原 愛古 ヨーロッパの音の風景～歴史のなかの音楽～</p> <p>◆第9回 平成29年3月4日(土) (参加人数:23名) 島田 隆輔 「宮沢賢治『銀河鉄道の夜』の信仰について」 福本七生子 「旅」のブックトーク:宮沢賢治・中村元・etc…</p>
--	--

3. 中村元記念館公開講座の開催

事業の目的	松江市職員共済会主催事業 メンタルヘルス事業として中村元記念館公開講座を行った。
実施期間	平成28年10月25日
事業内容	メンタルヘルスケアの一環として、市の職員27名が参加。 清水谷善圭氏(安来・清水寺貫主、中村元記念館理事長)を講師に、時間に追われる普段の生活。仕事やストレスで心に余裕がなくなっている現代人に向け、心の健康についての講義とともに、職場やご自宅など場所や時間を選ばずに気軽にできる「椅子座禅」の方法を実習した。

4. 企画展

事業の目的	<p>中村博士の研究や、人物、また、東洋思想などについて、理解を深めていただくために、博士の蔵書、収蔵品などを体系的に展示し、企画展を開催した。</p> <p>松江など地域に関連した特別展示、世界の楽器の展示なども行った。</p>
実施期間	<p>下記のとおり</p>
事業内容	<p>①「記憶のなかの思想—中村元の蔵書に見る日本の学知—」 中村博士の蔵書の中から、宇井伯寿博士、和辻哲郎博士など博士に影響を与えた人の著作を中心に、エピソードを交えながら“元(はじめ)”から紹介していくというコンセプトで開催した。 期間:平成28年7月26日(火)～11月30日(水)</p> <p>②「中村元博士コレクション イギリスに渡った『平家物語』～不干ハビアン物語～」 期間:平成28年12月1日(木)～</p> <p>③図書室ミニ展示～中村コレクション①～ 中村博士の関わった百科事典と、晩年の大作につながった雑誌『現代思想』を展示。 期間:平成29年2月4日～3月31日</p> <p>④特別展「ninjinの松江百景」 中野俊雄氏撮影の中村博士の愛した松江の風景の写真展を開催。 期間:平成28年2月28日～5月8日</p> <p>⑤世界の民族楽器展 平成28年2月13日～平成28年4月6日 八束町在住の門脇和也氏のコレクションである、日本国内のめずらしい楽器や、南米・アフリカなどの普段見ることができない楽器を多数展示。 楽器は見るだけでなく、実際に音を出していただけるようにしたため、来館した子供たちに非常に喜んでいただけた。</p>

5. 各種大会の運営支援

事業の目的	<p>外部団体の主催する大会や、イベントで、中村元博士や、インド仏教などについて紹介する企画を行うことで、中村元博士および東洋思想の文化の普及に貢献した。</p>
実施期間	<p>下記のとおり</p>
事業内容	<p>①島根県仏教徒大会 平成28年10月20日 島根県民会館 中ホール 主催:島根県仏教会主催 島根県仏教徒大会にて、「インド仏教聖地写真展」を開催し、大会の運営を</p>

	<p>支援し、中村元博士および東洋思想の普及に貢献した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演「慈しみのこころ」 <講師>奈良康明先生 ・展示ロビー「インド仏教聖地写真展」開催。丸山先生パネル他 40 点展示 ・来場者数:約 500 名 <p>②世界の書籍展 期間:平成 28 年11月1日～11月8日 くにびきメッセ 主催:世界の書籍展実行委員会・創価学会 来場者数:7,520 名 ルネサンス期から現代にいたる貴重な資料約 300 点を展示。松江での開催に合わせ、中村元博士関連図書の展示コーナーが設けられ、記念館所蔵の本を展示した。またこれに合わせ、島根県文化講演会が同会場で開催され(11月6日)、記念館学芸員が講演を行った。(講演会参加者:150 名)</p> <p>③「ブッダのことばとインドの風景」写真展 期間:平成 28 年 12 月 1 日～12 月 9 日 アメリカ バークレー市 浄土真宗センター 主催:アメリカ仏教伝道協会 記念館所蔵の写真を貸与 仏教伝道協会設立 50 周年記念行事の一つとして東日本大震災被害者の方への心の癒しと生きる活力を得ていただきたいという願いのもと日本各地で開催された写真展が大きな反響を呼び、アメリカでの開催となった。今後、ワシントン、ハワイ、ロサンゼルス開催を予定している。 来場者数:約 200 名</p>
--	--

6. 大学連携事業 ・ 中村元東洋思想文化賞

事業の目的	連携大学をはじめ、全国の国公立大学及び私立大学約100校を対象に、東洋思想を志す大学生・大学院生のすぐれた論文を広く顕彰し、今後の研究を奨励することを目的とする
実施期間	授賞式 平成 28 年 10 月 22 日
事業内容	<p>「中村元東洋思想文化賞」を設立し、東洋思想を学ぶ学生による学士論文、修士論文を表彰した。</p> <p>平成28年 10 月22日に授賞式を開催し、松江市能海副市長、ご臨席の元、優秀賞、松江市長賞、奨励賞を授与し、賞状と盾、学術奨励金の他に、記念品が贈られた。</p> <p>授賞式では、優秀賞を受賞された鈴木伸幸さんにより、受賞論文の内容をより一般向けにした『『大乘集菩薩学論』に説かれる菩薩戒について』の受</p>

	賞記念特別講演が行われた。
連携先	・大正大学、立正大学、佛教大学、島根大学、島根県立大学、東京大学(インド哲学仏教学研究室)、東洋大学、武蔵野大学、龍谷大学、大谷大学、 (3) 東洋思想・文化の普及、啓発のための出版及び広報事業

1. 中村元物語(小学生版・一般版)出版

事業の目的	松江市名誉市民でもある中村博士の業績や理念を、次世代を担う子どもたちをはじめ、多くの人に伝えることを目的とする。
実施期間	平成28年9月10日発行
事業内容	<p>松江市に生まれた中村元という世界的な東洋哲学者について、子どもたちにも博士の理念や業績を知っていただくため、小学生版、中学生版(一般向け)の2種類の『中村元物語』を刊行した。</p> <p>イラストや、写真を多く使用し、子どもにも理解できる言葉を選び編集されている。これまで発表されていない小学校、中学校時代の作文や日記などの資料も精査し、その時代に光を当てることでこれまで知られることのなかった中村博士の姿を紹介している。大人に向けても十分読みごたえのある内容となっている。</p> <p>松江市の小学5年生・中学2年生全員に配布。また近隣図書館などにも寄贈した。中村元記念館のある地元の八束学園では、この伝記との出会いを大切にということで博士の誕生日の11月28日を「慈しみ読書DAY」と定められた。</p> <p>■東洋思想の巨星 中村元物語【一般向け】 ■東洋思想の輝く星 中村元物語【小学生向け】 A5版・34ページ</p>

2. 記念館通信の発行

事業の目的	中村博士の業績や、中村元記念館の活動を記念館関係者の方々、また広く一般の方々にお知らせすることを目的とする。
実施期間	2回発行
事業内容	<p>第9号 平成28年8月発行 6000部発行 内容:松江校ガイドンス、文化カフェ、博士の本棚、大根島だよりなど</p> <p>第10号 平成29年2月発行 6000部発行 内容:『中村元物語』完成、東洋思想文化賞授賞式、大根島の素敵な一日他</p>

3. 中村元番組制作

事業の目的	島根県に比べて、広報が手薄になっている鳥取県に向けて、鳥取西部を放送エリアとするケーブルテレビで中村元記念館をPRする番組を制作。
実施期間	平成 28 年7月 放送回数約10回
事業内容	<p>中村元博士の人生を、貴重な写真や映像でつづり、業績を紹介するとともに、その遺志を継いだ中村元記念館の施設内容や、東方学院の講座や、研究内容を紹介し、山陰における東洋思想・人文学研究の拠点としての存在意義を伝える。</p> <p>番組尺：15分 中海テレビ放送コミュニティチャンネル 地デジ12ch 放送エリア：米子市・境港市・日吉津村・伯耆町・南部町・大山町・日南町 視聴可能世帯数：52, 000世帯 番組終了後、DVDを制作し、今後記念館のPRに自由に使用できるようにしていただいた。 機会あるごとに上映し、中村元博士、中村元記念館の広報に勤めたい。</p>

4. 博物館/記念館との連携

事業の目的	広く全国の方へ東洋思想・哲学を普及するため、哲学者を顕彰する全国の施設と連携し普及活動を推進。
実施期間	通年
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協定を結んでいる「史跡足利学校」ほか、石川県金沢市「鈴木大拙館」、石川県かほく市「石川県西田幾多郎哲学館」をはじめ、近隣の博物館や美術館などとはパンフレット・ポスターの掲示など広報についての連携を継続中。 ・雲南市の永井隆記念館からは、館長始め、市の教育委員会、市議会議員などが視察に訪れた。

5. その他広報活動

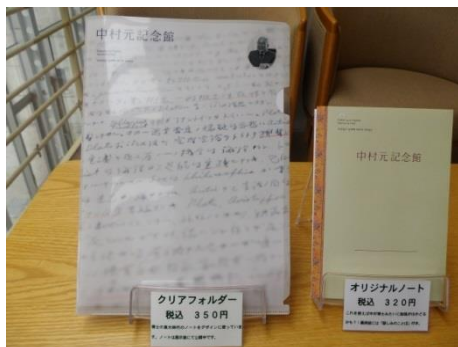
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・記念館、中村元記念碑のある大塚山への案内看板を新たに設置（松江市）。公民館設置看板にも中村元記念館の表示をしていただいた。 ・中村元記念館及び東洋思想に興味を持っていただく機会を創出するため、チラシやパンフレットだけでなく、ホームページやブログ、フェイスブックなど様々な媒体を通じて情報発信を行った。 ・パンフレットの配布（約 2000 部） ・ホームページの運営（講座・イベント情報等適宜発信中） ・メールマガジンの発行 No22～No33
-------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・フェイスブックの運営(50回更新) ・ブログの運営(37回更新) ・プレスリリースの発表(中村元東洋思想文化賞・『中村元物語』発刊など) <p>各種メディア・媒体掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山陰中央新報『第1面「慈しみの心」毎日掲載 ・山陰中央新報 文化欄 東方学院松江校 講座案内 随時掲載 ・りびえーる 企画展案内 他
--	--

6. ミュージアムショップ運営

事業の目的	<p>一般書店では手に入りにくい中村元博士の著作、東洋哲学、仏教関連書籍など、専門書籍を幅広く取りそろえ、来館者の知へのニーズを満たす。</p> <p>記念館オリジナルのお土産品の提供による、来館者満足度の向上。中村元博士及び東洋思想に触れる機会を創出する。</p>
実施期間	通年
販売グッズ	<p>一般の書店にない、哲学、東洋思想などの専門図書を充実させた。出版社の協力もあり、現在、CD や DVD など映像資料なども併せると160種以上の品ぞろえとなっている。また、来館者のお土産にふさわしい中村元記念館のオリジナルグッズとして、クリアフォルダ、オリジナルノート、慈しみのコーヒー詰め合わせ、地元産の紅茶や煎茶を記念館仕様にラッピングし販売した。</p>

クリアフォルダ・ノート



慈しみの珈琲



(4) 国際文化交流事業

1. アジア文化紹介事業

事業の目的	中村元記念館の必要性や、利用向上を目的とし、中村元博士が研究されたアジア全域について学術的な視点だけでなく、文化的な交流も促進し、興味を持っていただくきっかけを創出する。
実施期間	通年
事業内容	(1) ぼたん祭ステージイベント 平成28年4月30日：昨年に引き続きぼたん祭へ参加し、ステージイベントにて当館の岡崎研究員が主宰する音楽グループ「La・Esperanza」の民族音楽コンサートを行った。 (2) 図書館での文化紹介本の設置 アジア各国の文化紹介本等を公共図書館から借り受け、気軽に読書することができる環境を提供。 (3) 東方学院松江校講座 インド出身の島根大学助教授Hemanth氏を招き受講生、スタッフとの交流を行った。 (4) 国際ヨーガの日 平成28年6月21日 国連が定めた「国際ヨーガの日」にちなみ、記念館スタッフが製作した「中村元記念館 国際ヨガデー 10分間ヨーガ」の番組をyoutubeにて配信。 映像の中で、中村博士のヨーガに関する研究の紹介もおこなった。

2. 海外哲学研修

事業の目的	対象とする思想や哲学を理解するには、文字や写真による学習のみでは把握がむずかしいことが多々ある。そこで、現地まで赴き、その地の宗教や思想・哲学に実際に触れてもらうことで、その理解をより深めてもらうための一助とする。 平成28年度は、「アジャンター・エローラ石窟寺院群とエレファンタ島の旅」を企画・開催した。
実施期間	・平成29年2月10日～15日
事業内容	「アジャンター・エローラ石窟寺院群とエレファンタ島<<6日間>>の旅」 【エレファンタ島の石窟寺院】、【アジャンターの石窟寺院】、そして【エローラの石窟寺院】と、世界遺産でもある3つの石窟寺院を巡るツアーを開催。
参加者数	・参加者：9名

(5) 地域の文化、経済、観光、人づくりを推進するために必要な事業

1. 中村元記念館友の会の会員募集・会員特典の提供

事業の目的	当館の運営に対し共感し、協力する方々に「中村元記念館友の会」に加入していただき、中村元博士の業績、東洋思想及び当館の活動に対する理解を一層深めていただく。
実施期間	通年
事業内容	中村元博士の蔵書整理・公開、東方学院松江校の運営など、当館の活動に対して共感・協力していただける方を対象に、「中村元記念館友の会」に加入していただく。 ・会費 2,000 円/年 ・会員特典 会員証の発行、活動報告の発送、館内での書籍・グッズ購入時の割引、提携施設(由志園等)の入場料割引、会員同士の親睦会の案内 ・平成 28 年度会員 115 名

2. 地域・行政との交流事業

事業の目的	中村元記念館が故中村元博士を顕彰する為の施設であるだけでなく、地域に必要とされる施設であり続ける為に、行政、民間、地元八束町の住民の皆様との交流事業を実施する。
事業内容	・平成 28 年 4 月 29 日～5 月 5 日:ぼたん祭への参加・運営協力。 ・八束公民館図書室の運営協力 八束複合施設における図書室の設計や選書方針など、地域の各図書館とともに協力を行った。 ・平成 28 年 10 月 10 日:第 3 回中村元記念杯八束町、世代間交流 GG 大会の開催協力 八束町グラウンド・ゴルフ協会主催 ・ボランティアサポーター制度を継続して実施し、約 30 名の方に登録していただき、イベント・図書整理等で支援していただいた。 ・島根県 職員短期派遣研修受入 県職員 1 名。年間を通じ 6 日間、記念館の行事や活動に参加していただいた。
連携先	八束公民館、松江北商工会、八束町内の自治会・松江観光協会、島根県総務部人事課等

3. 子ども教育事業

事業の目的	子どもたちが自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力、生命を大切に作る心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等の道徳性を身につけられるよう、当記念館において小中学生を対象としたイベントを実施。
実施期間	通年
事業内容	<p>①夏休み子供ボランティア 平成 28 年 8 月 6 日～8 日「 八束学園と連携し、小中学生の夏休みボランティア体験を当館で受け入れ、図書整理、移動図書館でのブックハンティング(記念館に配架する児童図書の選書作業)、などいろいろな作業を手伝っていただいた。 参加人数:6年生3名参加</p> <p>②児童図書コーナー(さるすべりコーナー)に、毎月、公共図書館から相互貸借資料を配架し、親子読書から 10 代にわたる広い読書年齢に対応した環境を提供</p> <p>③「大根島の素敵な一日～中村元記念館見学と洞窟探検・坐禅体験～」 実施日:平成 28 年 8 月 28 日(日) 参加者:20 名 内容:1. 記念館の研究者による中村元博士について「学問の道」を探検。 2.自然観察員 門脇和也さんの案内のもと国指定の特別天然記念物「幽鬼洞」を探検 3.安来・清水寺貫主 記念館 清水谷理事長と一緒に坐禅をして、自分自身を見つめなおす「心のなか」の探検 たくさんの探検を終えた後は、景品付きのビンゴゲームを行い、夏休み最後の日曜日を親子で楽しんだ。</p> <p>④自習室の開放 記念館の静かな環境で、勉強や読書を行ってもらえるよう、小・中・高・大学生に自習室を解放した。(延べ利用者数:44名)</p>

4. 山陰インド協会との連携

事業の目的	中村元記念館が地域に必要とされる施設であり続ける為に、地域経済への寄与を目的とし、「山陰インド協会」と連携した活動を実施。
実施期間	通年
事業内容	インド国ケララ州産業省などの海外からのお客様の来松時に、中村元博士の業績やインドと日本とのつながりなどについて説明を行った。